

令和6年度 第3回 府市トップミーティング

日時：令和6年11月7日（木）9:00～9:55

場所：京都府公館レセプションホール

○西脇知事

それでは時間になりましたので、第3回のトップミーティングを始めたいと思います。まずは、松井市長をはじめ、京都市のみなさん、京都府公館へ御足労いただきましてどうもありがとうございます。

今年度から年に数回、機動的に開催すると言っておりましたが、すでに2回開催させていただいております。観光、教育の分野で言えば、府市協調で関連の補正予算も計上しており、「まるっと京都」という周遊観光ツアーとか、あと府立と市立の高校の合同の探究学習の発表会の日程もセットされたということで、具体的な施策がスタートしております。本日も、具体的な成果に繋がるような議論ができればと思いますので、どうか市長よろしく願いしたいと思います。市長の方から開会に一言お願いします。

○松井市長

おはようございます。毎回、本当に立派な施設、素晴らしいお庭があるこの公館で開催いただきましてありがとうございます。御準備いただきまして感謝申し上げます。

このトップミーティング、3回目ということですが、初回で合意した内容がですね、具体化されてきていて、知事と私もそうですけれど、府庁の幹部の皆さん、職員の皆さん、市役所の幹部・職員の皆さんで連携ができてきていて、アイデアベースで議論したものが具体化されるというサイクルが生まれてきているっていうのを本当に心から歓迎しますし、さらにこれを発展させていきたいと思います。しっかりと府と市が、知事、市長を含めてですね、交じり合って、良い構想をこれからも生み出していきたいと思います。ありがとうございます。

○西脇知事

ありがとうございました。まず、本日の流れですけれども、初めに前回までの合意事項であります「半導体産業の振興」と「市立高校と府立高校の連携」に関する具体的な内容の御説明を2項目触れさせていただきまして、そのあとは、様々なテーマについてのフリートークキングとしたいと思っております。

まずは、最初の具体的内容ということで、私から半導体構想、仮称でございますけれども、説明をさせていただきます。配布資料を御覧いただきながらですが、これはまた後程でもきちっと見ていただければありがたいと思っています。

京都府・京都市の担当課がシンクタンクの協力も得まして、また産学の様々な方へのヒアリング調査等も行いまして、仮称でございますが、「（仮称）京都半導体バレー構想」の骨格を作成させていただきました。この構想は京都市から関西文化学術研究都市までの府南部を中心エリアとしまして、すでに関連産業が立地しております府の中北部を発展エリアとして、

エリアとしては位置付けております。

それから、従来から話題に上げておりましたパワー半導体に加えまして、市場の将来性とか、あと京都の持つ強みというものを加味して、光半導体とA I半導体の2つの分野を加え、パワー半導体と3つの重点分野を設定させていただいております。

また、実現に向けた課題としては5つ設定しまして、資金、情報、人材、それからビジネス環境、重層的なエコシステムの構築ということで、しかも、この5つの課題に対して、オール京都での推進体制の構築を図ることが必要だということを提起させていただいております。これとりあえず骨格をまとめましたんで、今後とも引き続きですね、様々な関係者にヒアリング調査を実施しながら、この構想を進めるために、どのような具体的な事業が必要なのかということを含めて、まずは来年度の当初予算編成に向けてですね、検討を深めていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。市長から半導体について、補足をよろしくお願いします。

○松井市長

ありがとうございます。私、個人的なことですが、かつて今の経産省で勤務していた時、半導体産業、あるいは通商問題を担当している時期もあって、昨今の半導体を巡る国際的なダイナミックな動きというものを、しみじみと時代の変化を感じておりました、京都が今、知事からお話がありましたように半導体について、非常に高いポテンシャルがある。

他方でいわゆるファブって言うんですかね、製造工程ということで言うと、やはり熊本とか千歳の事例が注目を集めています。3つの分野の半導体の御紹介がありましたが、京都は非常に大きなポテンシャルがある。世界的な学会も多いですし、半導体という非常に裾野が広くてですね、そして製造工程も本当に多様な工程によって成り立っている産業っていうものの集積をもっと京都に持ちたい。そのための司令塔機能をどう持つか、あるいは情報の交錯点をどう結び合わせていくのかということは非常に大事だと思っています。

これ1年、2年で結果を出すというよりは、5年、10年結果が出るまでに時間かかると思います、こういうシンクタンクからのレポートを大切にしていきたいし、それからやはり、これからの人材育成という意味でも非常に京都のポテンシャルを生かせるプロジェクトだと思います。

私の方から一言だけ言及しておきたいのは、この配布資料の、このレポートの協力をしていただいた研究所はですね、府のOBの山下前副知事、これ実は京都市のOBも含めてですね、そして現役の府市の職員の方々がそこを結節点にして、色々議論していただいた。こういうことができたし、こういうシンクタンクというようなものができるネットワークができるということ自体も、これはもう半導体産業だけでなく、次の産業政策にも繋がる一つの大きな知恵袋が設立されたことについて、歓迎したいと思いますし、知事はじめ府庁の皆さん、市役所の皆さんの御協力にも感謝したいと思います。

○西脇知事

ありがとうございました。特に半導体に典型的に現れていますけれども、非常に国際的な競争が激しいし、色々話を聞いていると、どんどん世界がスピードアップして、色んな開発と

か研究が進んでいるということなので、何か役所が部屋の中で考えてるという話ではなかなかそれで追いつけないという意味においては、今市長が、御指摘ありましたように、まさに機動的にですね、スピード感を持って動いていただける強力な組織があるということは非常にありがたいということなんで、その点については、全く同感で、今後ともそこを生かした形での政策運営をしてまいりたいと思います。

次の話題で、今度は松井市長の方から、「市立高校と府立高校の連携」についてということで、その後の取組状況等についてお話をよろしくお願いします。

○松井市長

今日、皆様のお手元に青いチラシを配布させていただいておりますが、これは初回で知事と合意をした府立高校と市立高校の高校生が連携して探究型の学びができないかっていうのが、こういう形で前回7月にも御紹介しましたが、いよいよ実行委員会も結成されました。生徒が実行委員長、実行委員を構成する実行委員会が結成され、今まさに府立高校、市立高校で探究型学習が始まって、この12月21日を起点にして、これから探究型学習をしよう。起点というよりも、もう実質始まっているので、それを皆さんに知っていただきたいということでございます。

これは府も市もですね、9月補正予算において、これにかかる費用を補正予算で計上しました。そしてこの府立・市立で合わせてですね、51校、発表は100ブース、400から500名程度の高校生が、探究活動の成果を発表する予定でございます。AIの分野でも日本で一番の松尾先生、京都大学でそのカウンターパートとも言える、谷口先生も参戦していただくことになりましたので、まさに府立・市立の高校生がその垣根を越えて、東大・京大のAIの最先端の研究者と議論をするという、探究型学習ができました。

府立と市立の38名の高校生が実行委員会を結成して、もうすでに第1回実行委員会をやっておそらく、都合4回ぐらい実行委員会自体もやっていくということで、探究エキスポというこの名称もですね、生徒の実行委員会の投票で決まったということで、これが本当に京都で京都の高校で学ぶ価値ということ、創造発信する場になっていただきたいと思います。このキックオフイベントはですね、高校生だけじゃなくて、中学生にも参加を呼びかけたい。そして、大学関係者にも参加を呼びかけ、なお、知事と私とですね、経済界にもそういう状況を見てもらうということで、それこそ中学校から高校、このイベントは高校生が主役ですが大学、もちろん松尾先生を始め大学研究者が来て、そして京都の大学コンソーシアムも招待し、さらに言うと経済界までそういう姿を見ていただきたいということで、中高大、そしてそれが経済界までシームレスに繋がったような創造的な学びの場を形成していきたいというものでございます。

来年度以降も、これをぜひ継続したいということで、ひょっとしたら来年度は生徒の方から「こんなテーマをやりたい」とか、あるいは来年度はフルの1年を使ってやれるっていうことになると思いますので、そうなってくると、今回は実質半年とか3か月ぐらいですけど、もうちょっと分科会を作るとか、ユニークベニューみたいなところを体験してもらうというようなことも含めて、多彩な活動ができるんじゃないかなと期待しておりますので、ぜひ知事も共同発案でありますので、よろしくお願いいたします。

○西脇知事

市長どうもありがとうございました。私も全く市長の提案に同意見でして、やっぱり府立・市立の連携で学びが広がると、当然、生徒の成長に繋がっていくということで、体験の積み重ねが大事だなと思ってますし、学校現場にもですね、府市連携の充実に向けた機運醸成が高まっているなということも、肌で感じております。

府の教育委員会の方はですね、学校現場の参画も得ながらですけれども、今後、府市連携のあり方を議論したり、検討する協議会のようなものを設置したらどうかということも検討しておられましてですね、まさに高校生の学びの充実のために、市の教育委員会との連携っていうのは、高め、深めてまいりたいというふうに思っています。

また、高校生が選択して、また活動、活躍できる多様な機会を創出するためには、教育委員会とか学校だけじゃなくて、我々府庁とか市役所の関連部局ですね、連携を深めることも重要だということで、それぞれ知事部局・市長部局も全庁挙げて、高校生の学びというものをしっかりとサポートできる環境を整えていきたいというふうに思ってるんですが、どうでしょう。

○松井市長

はい。全く賛成です。今申し上げたように、それこそ経済界を担当している部署は教育委員会とまた違う部署がそれぞれありますし、あるいは経済界だけじゃなくて大学政策、ひょっとしたらこの後の議題にもあるかもしれませんが、そちらとも連携する必要があるので、今の知事の意見に賛同をさせていただきます。よろしくお願いします。

○西脇知事

はい。それからユニークベニューの方も当然、高校生にそういう学びもありますけれども、文化とか文化財に触れる機会というのが重要だと思っておりますので、その点も考慮させていただきたいと思います。

それでは今、市長からの提案も含めてなんですけれども、「市立高校と府立高校の連携」についてはですね、若干集約させていただきますと1点目としては、来年度以降も京都探究エキスポ、これ高校生がネーミングしましたけれども、継続実施をするとともにですね、高校生の学びをさらに充実するために、学校現場も参画して、連携のあり方を議論とか検討する協議会というものを設置させていただきたいこと。2つ目としては、高校生の学びをサポートできるように、教育委員会・学校だけじゃなくて、府庁、市役所の関係部局等との連携も深めていきたいということで、これは具体的な合意内容として、確認をさせていただきたいと思います。

それでちょっと時間の関係もありまして、半導体、府立・市立高校の連携についての具体的な内容の公表については、ここまでということで、この後はフリートーキングという形で進めていきたいというふうに思っております。

まずは、第1番目としてはですね、今ちょっと市長からもありました大学政策についてということで、若干、私の方から発言をさせていただきますと、前回のトップミーティングで

も話題に上がりました大学政策、やっぱり京都は大学のまちということで、非常に大きなテーマなんですね。前回は、学生の府内定着率の向上にも資するような大学と府内企業を繋ぐような仕組みの構築に向けて、府市が連携して取り組むことが必要ではないかということを私の方からお話させていただきました。だから、大学と企業を繋ぐ仕組みの構築に向けてはですね、今、大学コンソーシアム京都が、様々活躍をしていただいておりますけれども、このコンソーシアムとの連携協力も見据えて、府市の連携を深めて、大学に関する府市の取組というのは一体に実施していく必要があるんじゃないかなというふうに考えてるんですが、この辺りについての市長の考えをお聞かせいただきたいと思います。

○松井市長

はい、全く重要性については同認識でありまして、これだけの大学のまちですから、この大学のまちでせっかく大学生が集まっているけれど、これいつも言ってる話で、その多くが卒業すると京都のまちを離れてしまわれる。これは勿体ないので、我々はそれを何とか大学で集まった知をしっかりと京都のその後の学術・文化・産業を支える集積体として、原動力にしていかなければいけないと思っております。より多くの学生が卒業後、その地域とか地域企業と繋がりを持って、それこそ、小中高、先ほど申し上げたような探究エキスポがまさにそうですけれど、小中高と切れ目のない学習連携を進めて、それが社会課題の発見・解決の取組に繋がる。あるいは京都での就職とかスタートアップをさらに活性化するという仕組みを作っていくことが必要で、これは IVS で、知事と一緒に誘致したり、その活発な活動を支援するのと同じなのですけれども、そういう意味では京都市では大学コンソーシアム京都と連携して、その学生の活力による地域課題の解決、あるいはインターンシップを通じた京都企業の就業体験というのをこれまでも重視してきたし、これからさらにそれを重視していきたいと思っています。

また、それと関連して、少し横展開するとですね、やっぱり国内外からクリエイティブな人材を呼び込む、そして京都のまちと交ざり合ってもらおうということがすごく大事なので、そういう意味で留学生ですね。これは人口減少とか、今日もニュースが予定されていますが、そういう状況の中で留学生が過去最大になってるのですね。これから大学の国際化っていうことが、各大学共通の課題で、私は大学コンソーシアムで各学長と話をしましたが、皆さん同じ考えなので。留学生はさらに当然大学も増やしていきたい、京都のまちもある程度クリエイティブな人材を受け入れていきたいと思ってるのですが、それがしっかり京都のまちと交ざり合ってもらおうことがすごく大事。そういう意味では、日本語教育とか日本文化の学習機会というものをどう作っていくかというのは、大事だと思っております。これは京都市でもやってますし、京都府でもやっておられますけれど、留学生に向けて、実際のその後の就活とかビジネスとか地域社会と繋がっていくための日本語講座をやっていただいているので、これをですね、何とか留学生向けの日本語講座、これは日本語だけでなく日本の文化ということも知ってもらわないといけないわけですが、それをより一体性とか効果を高めていきたいと思っております。これは大学コンソーシアム京都でも私が対話をして、議題になりました。そことも連携して、留学生に選ばれ、そして留学生がちゃんと定着して地域社会と溶け込んでいっていただく。これすごく大事なことなので、そのための環境づくりを進めた

いと思います。

○西脇知事

ありがとうございます。私も知事就任以来、大学は重要だから、大学政策は重要だと言ってるんですけど、だいぶ反省もありまして、具体的な事業と具体的なタマを見つけて、大学政策でこれをやろうと言わないと、漠然としてるとですね、なかなか効果が見えにくいんじゃないかなということも思ってまして、そういう意味で今市長の提案がありました留学生は、実は前の山極総長が増やす計画をされて、それでコロナのときに減ったんですが、最近増えている。これ多分、中国の経済状況の影響もあるんじゃないかなと思うんですが、京都でとか日本で働きたい人すごいたくさんおられるんで、その環境を整えるという意味では、今、日本語教育もありましたし、それ以外の何とか就活も含めて、留学生支援。これそれぞれ府市でやっているし、非常に機能してる場所なんですけど、ここはもう少し連携によって効果を高めないといけないじゃないかということと、それからこの対応というのは個別大学というよりも、大学全般に共通してる課題が多いので、コンソーシアムと連携するのにもなかなかふさわしいテーマかなと思いますので、ぜひやらせていただきたいと。

加えてですね、これも多分、京都市も京都府もやってるんですが、大学が地域課題を解決すると言って、その現場に行くとですね、色んなコミュニティ開発だとか農業をやったりとか、この間の井手町のイデフルっていうスーパーでは、そのロゴとか名前とかも、大学生が、地域課題の解決をしている大学生のゼミの生徒が決めたみたい。色々やってまして、市もやっておられるんで、これも何となく協働すればですね、もっといいものになるんじゃないかなと思ってますので、その辺ちょっとどうでしょうか。

○松井市長

大賛成です。私自身も、大学で教員をやっていた時には、その課題発見、課題解決に役立つ人材を育成するというのが我々の大学のモットーでしたし、京都も複数の大学がそういうモットーを掲げておられますので、大学×地域、これは地域の支え手の方々がちょっと高齢化していて、そこに大学生が入ると非常にうまくいくのですね。

なおかつ、その地域企業がそこに絡んできて、そういう活動をするとも明らかに地域での就職率が高まるし、色んな意味で地域にとっても大学にとっても、非常に win-win の関係を作れるのでそれはやりたい。それからさっき中国の状況の話をされましたけれど、中国の今の体制の中で中国の優秀な人もそうですけれど、やっぱり日本の自由な地で働きたい。あるいは東南アジアの方々も、やはり日本の良さっていうのを再認識されているので、世界中のクリエイティブ層から今、日本、特に京都は再認識されているので、ここをやっぱり誘引して、そして地域の課題解決にもさらに繋げていきたい。この両方が大事だと思います。

○西脇知事

はい、ありがとうございました。地域でですね、結構継続的にやってるところは同じゼミがずっと入ってるので、先輩後輩の関係でもですね、かなり深く地域政策に関わっている大学もあるんですよ。

大学政策についてはですね、今の市長の方から提案のありました府市による留学生向けのビジネス日本語教育の一体的実施など、大学コンソーシアム京都とも連携して、留学生に選ばれ定着していただけるような環境づくりを進めること。それから、2点目としては、後半、私が提案いたしましたけれども、学生、地域、企業等との交流連携事業ですね。これも府市で共同して実施すること。この2点について、今回、大学政策については、合意事項として確認をさせていただきたいと思っております。

それではですね、次のテーマに行きますが、前回のトップミーティングで議論しましたメディアとかアートとか映画について、もうちょっと議論を深めたい。ただ、これ非常に幅広いテーマなんですけれども、例えばですね、今年の9月は京まふを開催されましたし、それから東映の京都撮影所の衣装部の方がスタッフで参加された「SHOGUN 将軍」ですね、これ衣装デザイン賞も含めて歴代最多18冠というようなことで、京都のメディアに関する明るい話題が結構あったと思います。

前回のトップミーティングでは、KYOTO CMEX等を活用したメディア文化の発展とか、太秦メディアパークを拠点とした産業政策。それから、メディア芸術ナショナルセンターとの連携ってことで、府市連携で取り組む必要があるんじゃないかなというふうに私話しまして、市長の方から京都の映画祭についてですね、お話がありました。

これ非常に多岐にわたってるんで、まずはメディアについてですね。私の方から1つ提案をさせていただきますと、京都府ではBit Summitというインディーズゲームのイベントを開催しておりますし、先ほど言いました京まふは京都市の方がマンガ・アニメのイベントを開催してるというので、こうしたメディア関連のイベントをですね、例えば共同運営、共同プロモーションするとか、合体はなかなかすぐは難しいんですが、一体的な形で実施できるようなことをしてはどうかというふうに考えてるんですけど。この辺りについては、市長のお考えはどうでしょうか。

○松井市長

はい、ありがとうございます。今、言及いただいた京まふはですね、今年の9月は過去最大の出展規模、そして3万5000人を超える方々が訪れていただきまして、従来の岡崎エリアのみやこめっせとかロームシアターだけじゃなくてですね、マンガミュージアムとかちょっとサイドイベントも作りまして拡大しよう。私も実行委員会に出させていただいて、これぜひ実行委員会の中でもですね、Bit Summitの話もいつも出てきますし、うまく連携していきたい。知事も非常に協力的でいらっしゃるんで連携していきたいと、もうすでに私は実行委員会でもお話をしまして、知事の御意向を踏まえてですね。そういう意味ではこれはぜひ、トータルとしてですね、やっぱりコンテンツ産業って、ポテンシャルはすごい京都はあるのですが、まだまだ全体から言うと東京一極集中は拭えないので、やはりもっともって国内外のクリエイティブな人材、メディア・アートの人材が京都に集まって、京都に一大コンテンツ産業の集積点を作っていきたいと思っておりますので、おっしゃったようにですね、マンガ、アニメ、ゲーム、それぞれ重なりとちょっとずつウイングが広がっているところがあって、京まふ、あるいは太秦NINJA PITCH、もちろんBit Summitもそうですけれど、このクリエイター人材、これを連携してですね、クリエイター人材の集積に活用していきたいと

思います。ぜひこの京都の、それこそ半導体も1つの大きな産業の塊ですけども、このメディア、あるいはアート・コンテンツ系の産業群としては、半導体に劣らない規模の将来のポテンシャルがありますし、京都のポテンシャルという意味では、半導体よりもさらに大きなポテンシャルがあるかもしれませんので、ぜひ産業振興にも繋げていきたいと思います。

○西脇知事

ありがとうございます。広がり非常に広いんで、それぞれのイベントには特徴あるんですけど、連携した方がいい部分はかなりあると思いますので、それをよろしくお願いします。

次、アートにつきまして市長の方から。

○松井市長

アートは、私もこの連休中に色々このアルティのホールにも寄せていただいたのですが、文化の日でもあるので、アートのイベントに足を運ぼうと思っていくつか回ったのですが、ACK (Art Collabolation Kyoto) は素晴らしいですね。もうものすごい成果で関係者の評価もすごく高くて、そしてそれと同じ時期に今回、artKYOTO を実施させていただいて、さらに言うと、ARK (Art Rhizome KYOTO) もちょっと期間に幅はありますが、同じような時期に実施させていただいて。国際会館の ACK も素晴らしいと感動しましたが、それとartKYOTO の街中の場所、さらにこの ARK、あるいはそれぞれと連携した色んなユニークベニューですね、そこに展示されてる方が、そのユニークベニューでも展示されている。例えば、私は無鄰菴とか行きましたが、そういうのが非常にお互い相乗効果ですね。本当になんかアートの関係者がみんな京都に来てるっていう状態を、東京のあるクリエイティブなことをやっておられる社長とたまたまお会いして、「今、アート関係者がみんな京都に来てますよ。」と、「世界中から、それに日本中の関係者が来てますよ。」っていうような、アート一色になった瞬間ができていて、これはもう素晴らしいと思うので、これぜひですね、このアーティストとの交流というのを進めていきたい。

令和5年度から京都市は、ACK に来場する VIP が京都ゆかりのアーティストの制作現場を訪問する。それが結局、サイドイベント的に繋がったりするのですが、そういうスタジオビジットツアーなんかもやっていて、何とかこの好評のアートの催しを、より加速的に相乗的に行っていきたいというふうに考えております。

○西脇知事

ありがとうございます。Art Collabolation Kyoto に来ていただきまして、ありがとうございました。特に今年、去年よりも若干進化するんだって聞いたのは、海外のギャラリーの出展規模が昨よりも多かったらしくてですね、選ばれることが1つのステータスになってるといことと、あと国内のギャラリーと海外のギャラリーが1つの空間をシェアして、同じテーマで展示してるんですけど、あそこだけじゃちょっと足りないからというので、関係なく市内の方にそのギャラリーが、別にやっておられると。我々がやるサイドイベントじゃなくて、まさに自主的にですね、かなりたくさんのサイドイベントをされてるということなんですね。それでコレクターがかなり、海外の著名なコレクターが来られたりとかあって、とい

うことですんで、そういう意味では非常にアート市場を京都で活性化する素地が少し出てきたなということなので、今、市長からの提案がありましたけれども、さらに活性化させるということで、この府市のアートイベントについてもですね、開催時期を連動させるとか、そしてその開催時期は、例えばですけれども、「アート月間（仮称）」とかなんか名前をつけてですね、一体的に発信できればですね、相乗効果が高くなるんじゃないかと。それぞれのイベントには若手アーティストに特化したとか、ACKだとギャラリーをやられると、その特徴は消せないんですが、さっき言ったように勝手にどんどんサイドイベント化してるんで、非常に幅広いエリアで盛り上げていくということ。なんで、ぜひ一体的な発信について、すべきだと思うんですけど、その辺市長はどうでしょうか。

○松井市長

はい。まさしくそうで、知る人ぞ知るなのですが、これをさらにもっと一般の方々、本当にアートのディープな関係者だけじゃなく、一般の方々にも知っていただかないといけないし、そういう意味では広報、あるいはその連携強化、そしてアート市場というものを活性化させていくというところに繋がたいですね。それともう一つあるのは、今回サイドイベントというか、ユニークベニューでそれぞれ関係者が展覧会をやられて、いわゆるホワイトウォールにアートを展示するというところだけじゃなくて、町家の壁に展示するということの思わぬ妙みみたいなものを海外のアトリエの関係者も知られたらしくて、そういうことがですねアーティストインレジデンス、要するに、こういうところに住んで、こういうまちで創作活動し、こういうまちでこの町家の中で自分のアート作品を展示するなんてことの価値に気づいていただけるってということにも繋がってるので、これは本当に波及効果が大きいので、色んな波及、政策にも繋がっていくと思います。

○西脇知事

ありがとうございます。そうですねアートフェアの世界の潮流としては、やっぱり京都みたいなところでやった方がいいんじゃないかって話になりつつあるみたいですね。そういう意味では、非常に優位な立場にあるということです。ただ、単体で来るには極東まで遠いって言うておられる方もおられてですね、どうせ日本に行くなら、色んなものに参加したいっていうような声もあるようなので、この辺りも含めて、発信をさせていただきたいなというふうに思っております。

1点目のメディアについてということであれば、府市が実施しておりますメディア関連のイベントもできる限り一体的に開催して、共同での運営とか、プロモーションを実施したいというふうに思っているのが1点。

2点目、アートについては、府市が実施しておりますアート関連イベント、まずは開催時期をできる限り連動して、開催時期、これ後で名称考えたらいいと思うんですが、「京都アート月間（仮称）」のような形でですね、一体的な発信に取り組むということを目指したいというふうに思っておりますので、それを合意事項としたいというふうに思っております。

そして文化系ではあと1つ、映画ですね。これについて、非常に長い歴史を、京都は映画について持ってますので、市長も色んな思いがあると思いますが、よろしくお願ひしたいと

思います。

○松井市長

ありがとうございます。太秦に何度か知事と御一緒させていただいたりしてるのですが、やっぱり映画の聖地、太秦というものを抱え、また、太秦だけ言うそうですね、例えば木屋町エリア、あるいは銅駝エリアの人たちに、立誠校とか銅駝校のあたりは「本当の映画の聖地ですよ」というふうに言われるのですが、京都は映画の聖地だと思います。

知事にも何度も申し上げている「侍タイムスリッパ」、さっき「SHOGUN 将軍」のエミー賞の受賞の話が出ましたが、まさに太秦で自主制作映画で、太秦を題材にした侍タイムスリッパですね、大変なブームになってまして、単館とか2館上映から、今二百数十館上映になって、今もブームが続いていて、むしろ東京の人が「これ見たか」という話をみんな私に聞いてくるっていう。こういうような素晴らしく、まさに太秦映画村を舞台にしたような時代劇が今ものすごく若い人の評価を集めてるっていう、このポテンシャルで京都出身、これ城陽で農家を営まれている安田淳一監督がですね、まさに太秦撮影所を舞台とする映画を作られて躍進している。これは京都の映画の魅力をアピールするものすごく私はチャンスだと思っています。

京都市では京都映画賞を実施しておりまして、これを来年度以降ですね、何とか、非常にこれもプロの間、プロというか特にファンの中で評価の高い「京都ヒストリカ映画祭」とですね、この京都映画賞を合わせて盛り上げていきたいと思ひますし、令和5年度、第10回開催をもって終了した京都国際映画祭、実は今申し上げた映画もその出品作品なのですね。これをやっぱりどういうふうに次に繋げていくのかということも含めてですね、京都の映画産業とか映画文化をどう盛り上げていけるか。これは京都府、京都市、そして京都ゆかりの映画関係者の間でですね、これ何とか一緒になって、前向きに考えていく枠組みは作れないかなというふうに思ひます。

○西脇知事

ありがとうございました。なんかこういう枠組みを作りたいっていうので。「侍タイムスリッパ」、すいません、私まだ見れてなくて、市長にずっと薦められてるんですがなかなか時間がないんですが。

あとそれから、東映の太秦映画村のリニューアルを今やっておられますけれども、要するに時代劇が撮れる撮影所、東映、松竹っていうそういう非常に伝統、それが生かされて「SHOGUN 将軍」とか、それに繋がってるということなんですが、一方では、メディア産業との繋がりということで、もうほぼほぼゲームもアニメも映画もテレビもなんですけど、映像という意味では、ほとんど似たような、ベーシックな技術のベースになりつつあるというので、そういうことがあるので、伝統ある映画業界っていうのはもちろん、そこを始点にしながら、他の分野で活躍するクリエイターの御意見も視点も取り入れたような議論を行うということで、ぜひ京都の映画界をさらに発展するように進める。

ただ、これちょっとまだどういう形がいいのかっていうことなので、京都府、京都市と当然、映画業界を巻き込んで、映画振興についてどういうことが必要なのかということ、ま

ずちょっと議論をした方がいいんじゃないかなというふうに思ってますので、ちょっとこれ、具体的にどういうことをするのかについては事務方同士で、メンバー、開催時期も含めて検討していただければいいんじゃないかなと。色んな御意見がある。裾野が広いのですね、その辺どうでしょう。

○松井市長

はい。まさに裾野が広いので、まずちょっと関係者で、ラウンドテーブル的に議論をしてみるってところから始めたらいいんじゃないかと思います。京都国際映画祭の今後のことも決まってませんし、色んなことを企画してる方々は、企画の芽みたいなものがあるみたいですけど、ぜひ、ヒストリカ映画祭とうまく、せっかく好評を博しておられるので、うまく連携したいと思います。

○西脇知事

わかりました。それぞれの、今までやってきた取組の背景とかもありますし、関係者もおられますので、よくそこは議論をさせていただければなというふうに思っております。

ここまでは半導体産業とか、メディア産業、産業政策については、そういうことを議論してきましたけれども、ここからはちょっと伝統産業についてですね、意見交換をしたいなというふうに思っております。

これ今までからも、京都の、世界の最先端の技術を誇る企業の技術っていうのは、例えば半導体の基板製作には西陣織の技術が使われているとか、島津は仏具ですとか、任天堂はトランプ、花札だとか、焼き物はですね、京セラ等も含めてそういう陶磁器から。伝統産業が基盤にして、最先端技術の基礎になっているという、こういう一つの流れがあるので、伝統産業の振興も非常に重要だと思ってますし、もう一つは、京都の文化を支えているのは、結構、伝統産業じゃないかと。考えてみたら、お茶もお花もですね、歌舞伎も能、狂言、それから宗教的行事も全部これは和装によって成り立ってるというようなことがありますし、工芸品もそういう形ですね。茶器なんか花器とかはまさにそうだという意味では、文化首都・京都を支えているのも伝統産業だと思いますが、やっぱり様々な需要減とか担い手不足とか、あとそれから機械の老朽化だとか、あとそれから素材というかですね、製品の数、色んな課題を抱えてまして、4月の最初のトップミーティングでは、伝統産業に若い発想や力を取り入れて、次の時代にシームレスに繋ぐことの大切さとか、若手の人材の確保の必要性については若干意見交換させていただいたんですが、これをさらに伝統産業の振興をこのトップミーティングでも深めていくべきじゃないかなというふうに思っておりますので、私としてはですね、今後の話ですけども、意欲ある若手の職人とか、先ほど言ったメディアとかアートに従事している方の力とか入れこんで、今後の伝統産業の振興を議論するような場を設けてはということなんですけど、ちょっとこれアイデア段階なんですけど、市長の伝統産業等も含めて問題意識とかをお聞かせいただければありがたいなと思います。

○松井市長

はい。ありがとうございます。もうまさに知事が言われたとおりで、色んな京都を代表す

るような国際的な企業も、もとはと言えば、伝統工芸とか伝統産業に従事していた方々が、その技術をベースに新しい製品を作られて、世界に展開されてるっていうのは非常に多いと思いますので、伝統産業というのは伝統とか暮らしと文化を支えると同時に、イノベーションを生んできたっていう意味で、これを本当に大切にしていきたいと思います。

なので、非常に今、需要が低迷したり、もう担い手とか素材の確保が難しくなっている状況で、ちょっと放っておくと、この素晴らしい世界の宝のような技術が廃れてしまうというのは何とか下支えをしてですね、製造を続けていただくと同時に、やっぱりコラボレーションですね。私もこの前、某世界的ブランドが岡崎で、展示会をされたときに、そこのバッグに非常に有名な西陣の技術の織が入っている作品、全部一点ものの作品が、その同じバッグで、私が見た限り3点ぐらいその西陣の同じ素晴らしい織の素材が使われたバッグだったんですね。それを拝見してですね、もうこれは世界のブランドの最高級品が認めるぐらいの素材というのがあるながら、残念ながら出荷額がピーク時に比べて本当に桁が落ちてしまっているっていう。これを何とか若いデザイナーとかファッション関係者の方々にも見出して、もう1回マッチングをして、その用途というものを再開発していきたい。あるいは新しいイノベーションを生んでいきたい。あるいはアーティスト達がこう作品の中で、やっぱり日本の伝統工芸の美みたいなものを素材にしている作品も今回の artKYOTO なんかでも拝見してですね、やっぱりそういう意味でこの匠の技、そういうクラフトマンが世界中から日本に集まってくるようなまちをつくっていかないといけないと思うので、これはぜひ、具体的に何か多様な分野のクリエイティブ人材にもどう伝統産業・伝統技術を生かすかっていうことを議論していただいて、次の時代に承継していくような取組をしていきたいと改めて思っております。

○西脇知事

ありがとうございます。多分、若い力は絶対入れないといけないなと思うのと、アートの観点はいれなきゃいけないと思うので、ちょっとどういうメンバーで議論するかということとを事務方ともよく相談させてですね、いずれにしても、これは伝統産業の振興で重要な課題なので、きちっと議論をさせていただいてと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

ちょっと先急ぎますが、観光政策はもう「まるっと京都」を今やっててですね、どうも聞くところによると、参加者も旅行業者からも好評だと。今まであんまり行ったことないところに行かせてもらってっていうんで、だからこそ値打ちがあるんですけれども、ということなんで、これは場所の分散化だったんですが、もう一つ、ナイトタイムエコノミーとかいったような時間の分散化も必要があるということを話しました。

この間の府立植物園の100周年記念でやってる LIGHT CYCLES KYOTO の、私の挨拶は植物の挨拶でいったんですが、文化庁長官の挨拶は全部ナイトタイムエコノミーの挨拶だったんですが、肌感覚ですけど、統計はないんですが、外国人観光客の方が来ておられるようでございますので、その辺、京都市は本当に分散化政策が、我々なんかが考える以上に色んなことをやっておられますけど、このナイトタイムエコノミーについてはどうお考えですか。

○松井市長

はい。今、言及いただいた「まるっと京都」が、非常にもう10月末時点で予約人数が1,100人を超えているということで、好評をいただいているようですが、ありがたいことだと思います。そのまさに時間の分散化、場所の分散化と同じでナイトタイムエコノミーって非常に大事で、これまでから、今、言及いただきましたように、京都市では朝夕の観光を始めとしたコンテンツ造成というものを強化してきておりまして、これをさらにどういう形で具体的にどんなメニューを増やしていけるのかということを考えていきたいと思います。

そして、加えてですね、これ京都府が海の京都であるとか森の京都とか竹とかそういうコンセプトを作ってですね、京都府全域の振興をしておられますけれど、これは時間ということでは必ずしもないのですが、これは前に知事からお話がありましたが、「川の京都」ということで、この府市協調で、その川というものを1つのテーマに。川と言ったときに、京都はすぐ鴨川を思い浮かべますが、桂川もありますし、それから宇治川とか淀川もありますので、そういう意味では川ということモチーフにして、さらなる観光の集中緩和というものを考えていくということも大事だと思います。

それから観光に関して言うとですね、私がちょっと常々感じてますのは、いつも観光集中の問題を議論されるのですが、市民生活の調和という意味ではですね、ちょっと今年の五山の送り火のときに、上空をヘリが飛行してですね、物議を醸したことがまだ記憶に新しいのですが、歴史に培われた文化、あるいは伝統行事、あるいは神社仏閣への参詣、そういうものについてもですね、やはり京都は精神都市であり宗教都市でありますので、畏敬の念をどう持っていただくか。これは五山の送り火の時のヘリの話だけじゃなくて、ちょっと神社仏閣でですね、そういう宗教的な場所であることを必ずしも踏まえない行動が散見されるという話もありますので、ちょっとこの京都のまちの観光のあり方というものもですね、これはもう今、秋の観光シーズンですから、むしろ次に向けてどんなことができるのかということを考えていきたいというのが1つ。

もう1つはですね、これ非常に京都府警にお世話になりながら、あるいは地域の方々にお世話になりながら、例えば、この秋で言うと、嵐山、東山地域の交通の円滑化ということで取り組んでまして、特に、今月の下旬には、東大路、東山通りでの社会実験に向けて、京都府警と綿密に打ち合わせをしながらやっております。

引き続き、この京都府や京都府警を始めとした関係者の方々と、混雑対策、あるいは今申し上げた広い意味でのマナーとか、京都の文化をどう尊重していただくのかというようなことも含めて、観光と市民生活の両立っていうものに取り組んでいきたいと思います。

○西脇知事

ありがとうございます。観光はもちろん市でかなり独自の取組をされているので、心から敬意を表したいと思ってますし、「まるっと京都」もやりましたし、今ナイトタイムエコノミーの話もしましたんで、これどちらにしても府市で連携して、観光施策をさらに進化させていくことが重要だと思ってますので、ここは事務方でよく議論を詰めていただいて、今後のトップミーティングのところでどんなものが合意できるかについては、引き続き検討させていただきたいなというふうに思っております。よろしくお願いします。

それでは次ですね、観光もそうなんです、スポーツの秋でもあるんで、ちょっとスポーツの話題について、1点申し上げますと、京都府域には、ある程度大規模なスポーツ大会が可能な施設がありますし、当然、例えばそれから西京極総合運動公園とか、あと我々が今度新たに建設を予定しておりますアリーナとかいって、特に南西部なんかについては、市立と府立のスポーツ施設が比較的近い範囲にまとまっているというようなエリアもあるし、それで、こういうような資源をですね、活用して国際大会をはじめとするトップレベルのスポーツ大会を誘致するとか、それを地域活性化に繋げるとかっていうことで、連携をしていきたいというふうに思ってるんですけども、そのあたりについての市長の考えはいかがでしょうか。

○松井市長

はい。今、西京極のことを言及いただきましたが、やはり西京極は京都のスポーツの最大の拠点だと思っております。かたおかアリーナではですね、女子プロテニスの国際大会、GSユアサオープンが毎年開催されてますし、また、向日市の京都アリーナが非常にこれからいいものになっていただきたいと私たちも思っておりますが、考えてみたらですね京都アリーナとは阪急沿線という3つしか離れていないのですね。ですから今まさにちょうど南西部のスポーツの拠点というふうにおっしゃったのですけれど、そこをトップレベルのスポーツ大会などを共同で開催する。あるいは予選と本選と違って色んなやり方があると思います。

それから、西京極はジャパンラグビーリーグワンの開催がたけびスタジアム京都でも決定されました。これもやっぱりサッカーとかラグビーという意味では、サンガスタジアムとですね、しっかり連携して西京極をどう活用していただくかというようなことも考えていかなきゃいけませんし、西京極に関して言うと、今年度末までにですね、その整備・運営活用方針というものを我々も策定する予定でありまして、今後、スポーツ以外の多面的な活用も含めてですね、民間事業者の御意見を聞きながら、西京極総合運動公園の今後の活用のあり方を検討していきたいと思っております。

加えてですね、京都市内という意味では、横大路運動公園もありますし、その他、宝が池とか伏見桃山とか色んなところに運動場もありますので、やっぱり大規模スポーツ大会の予選等を連携して開催される受け皿になる、そういう可能性としても、府市協調で追求してですね、スポーツのまちということで、大規模スポーツ大会の誘致とか、財政的になかなかしんどいけれど、スポーツ施設の環境を充実、魅力向上を図っていききたい、総合的にスポーツのまちづくりというものも取り組んでいきたいと思っております。

○西脇知事

ありがとうございます。様々な連携について、これ今後ちょっと議論をさせていただきたいなと思っておりますが、特に南西部について言えば、西京極とアリーナとの関係性で言えばですね、まず、よき連携するためにも、スポーツ施設のアクセスの円滑化とかですね、そういうものをぜひ府市連携で進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○松井市長

はい。まさに京都アリーナの整備地周辺では、これ京都市域もありますので、これまでも大原野の都市計画道路、伏見向日町線の整備を進めてきましたし、現在は中山石見線の整備を進めております。

これからもですね、スポーツ施設へのアクセス改善という意味で、京都府と一緒に何ができるかをしっかり考えていきたいと思ひますし、現在、進めている道路整備については、引き続き、早期の完成を目指して取り組んでまいりたいと思ひます。

○西脇知事

ありがとうございました。

ちょっと時間も来てますが、最後のテーマを1点、子育てということで、特にこれは府・市それぞれの議会でも話題に上がっております、子育て支援医療助成制度について、まずは市長からの御意見をお伺ひしたいと思ひます。

○松井市長

はい。これは私どもがアンケートを取ってもですね、子育てに関して言うと子育て費用の軽減というのが、理想の子どもの人数はそれぞれのご家族によって違うと思ひますが、それを理想の子どもの人数を設けるために、必要なことは何か。8割の方が子育てにかかる費用負担の軽減というものを取り上げられています。

そんな中で、9月府議会です、知事の方から、これは私も公約に掲げてまいりました、子ども医療費助成制度のあり方、ちょうど小学生まで1月1医療機関に何度かかっても200円という制度を設けていただいて1年が経過しますが、この段階です、知事にこの検討会議を設けて議論するという、そういう意思表明をいただいたことを非常に心強く、私としては感謝をいたしております。できるだけ早期に検討会議を開催していただいて、そして、子ども医療費助成制度の更なる拡充の検討に着手いただきたいと思いますし、引き続き、府市で連携して子育ての支援というものを前進させていきたいと思っております。

○西脇知事

ありがとうございました。子育て支援医療助成制度につきましては、昨年秋に制度拡充してから1年が経過をいたしまして、京都市をはじめ、他の団体からもたくさん拡充のための意見をいただいております、この機会に改めて、専門家などとともにですね、まずは成果の検証、それから医療助成制度のあり方を議論していただく検討会議を設置いたしまして、府内の市町村等の意見を聞きながら、検討を進めてはどうかと考えております。

今月中に検討会を立ち上げまして、第1回目を開催すべく、今調整を進めたいと考えておりますので、ぜひ御協力をお願いしたいと思っております。その検討会の意見も踏まえまして、制度のさらなる拡充を含め、検討を進めていきたいと思ひます。また、この場でもですね、検討がさらに進んだ段階では、意見交換をさせていただきたいと思ひます。

ありがとうございました。ちょっと時間をオーバーいたしました、大体、意見交換は以上とさせていただきますと思ひます。途中で合意事項については確認してきましたので、

全体についてはここでは確認をいたしませんけれども、いずれにしても、合意した事項、それからフリートーキングでさらに議論を深めていこうとした事項も含めて、今後、事務方できちっと検討すること、そして、それをさらにまた次のトップミーティングに熟度を上げていこうという、それぞれの段階がありますので、それぞれにつきましては、事務方の更なる検討をよろしくお願いしたいと思っております。最後に市長から何かあればよろしくお願いします。

○松井市長

ありがとうございます。最初に知事からありました、こうやって3回、4月、7月、11月と府市トップミーティングを開催させていただいて、なんとなくサイクルが見えてきたなというふうに思います。この時期に開催するのは、翌年度の予算編成に向けての1つの大きな府市での共同歩調というのを確認できることになります。

そして、今年の場合は、最初の私の機会というのもあって、4月になりましたから分かりませんが、やはり、ある程度人事とか年度替わりの節目の時期に、どういうことをアジェンダとして議論していこうかという議論をし、どっかの段階で中間的に進捗状況を確認し、また新しい課題っていうのも出てくる。そういうことを、こうやって今年の場合は年3回ですし、年何回ということを決める必要もないかもしれませんが、こういう形で定期的に府市がトップミーティングをして、色んな懸案も課題も残ってるものもありますが、やはり各年度どんな事業をやっていくか、それをどうレビューしていくのかというサイクルができてくることは、私は非常に良いことだと思います。

大変お忙しいと思いますが、これからも府市協調ですね、サイクルを1年間のサイクルの中で、ある程度一定の時期に、大まかであっても一定の時期に行い、そしてそれを事業としてしっかり工夫し、それぞれ議会もありますので、議会等の関係も含めて、きちっと府市協調。それは府議会と市会の協調ということにもなっておりますので、サイクルを定着させていけばいいし、それからまた1つお願いしたいのは、何か非常に大きな事柄が起こったときは、そういうサイクルということと別に、これは機動的にこういう枠組みですね、議論ができれば大変ありがたいと思います。

今日も素晴らしい環境の中で議論できたこと、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

○西脇知事

どうもありがとうございました、今のサイクルの話は私もほぼ同感でして、ただ固定的ですね、何月にやると決めるってことはないんですが、特に今回、若干盛りだくさんになってるのは、やはり7年度の当初予算編成の検討に入ることで、検討が進んでからやってもですね、終わりましたってなるし、あんまり早過ぎてもいけないので、大体この時期ぐらいに、問題意識があれば、ある程度事務方の詰める時間もありながら、次のステップに行きやすいかなということなんでちょっと盛りだくさんになってしまったんですが、そういう意味では、この時期はこういうことで。

ということで、今、市長がおっしゃったように、年度の初めごろとか、中間での進捗管理

とか、まあちょっとその辺りも、それはちょっと、どちらかとその企画サイドの事務方でもよく議論していただいてというふうに思っております。いずれにいたしましても、少し時間をオーバーしましたが、今日はどうもありがとうございました。